

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 1月 18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400890		
法人名	有限会社 諫早ケア・サービス		
事業所名	グループホーム くれも 1号館		
所在地	〒854-0055 長崎県諫早市栗面町 810-2		
自己評価作成日	平成 24年 12月 13日	評価結果市町受理日	平成 25年 1月 21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目 七二一七島原商 工会議所一階
訪問調査日	平成 25年 1月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>〔一号館〕</p> <p>朝の掃除は個々の能力に応じて、居室・廊下・洗面台・手すりの拭き掃除などの手伝いをして頂いている。歩行不安定な方には座って出来る、観葉植物・置物の拭き掃除をして頂いている。他にも日常生活における様々な作業・調理の下ごしらえ・洗濯物干し・たたみ等積極的に取り組んで頂いている。機能低下、能力低下の進行を防ぐ為にマッサージや散歩を取り入れている。血行障害や冷え性の方には足浴や手作りカバー付き湯たんぽを使用し、症状が改善され心身のリラックスに繋がるよう努めている。帰宅願望の訴えがある方には、話に耳を傾け不安な気持ちを取り除くよう支援している。状態低下した場合は、医療・家族との連携を図り、苦痛を取り除き穏やかに本人らしく終末を迎えられるように支援している。</p>
--

〔二号館〕

能力に合わせリハビリメニューを決め、歩行訓練や関節の屈伸運動、手作りのおもりを使つての足上げ運動等を職員一丸となり行い機能の向上・維持に努めている。又、個々の趣味を会話の中で見つけ出し、家族の方からの情報を得て、レクレーションや日々の活動の中に取り入れる事で生きがいを見つけ、活発的に生活されている。その為か掃除・食器拭き・洗濯物干し・たたみ等自らの役割を持って活動されている。入浴の準備は職員が行うのではなく、個人個人で着たい洋服を選んでもらい、その人らしい恰好をしてもらう事で個性を引き出している。入居者同士の思いやりがあり見守りの必要な方の立ち上がり時や、食事の時の声かけやお互いに見守り合う協調性豊かな入居者が揃っている。介護者本位の支援ではなく、入居者に了解を取りながら自己決定のもとで支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは平成 24 年 9 月よりサービス付高齢者向け住宅を新設されている。当該ホームの代表は、自らの介護職の経験及び家族の介護を踏まえて、職員と家族の立場を十分に理解した対応に努められており、理念である「ひとり一人の尊厳を大切に」に寄せる思いを、共に過ごしている職員も家族のように、心をひとつにして取り組まれていることに敬意の念が感じられた。また、日常的な生活は医療との連携を図りながら、利用者の出来る事を見極め、利用者のあるがままを受け入れ、自信の持てる支援と身体的維持の継続の支援に努め、職員の細やかな配慮で笑顔のある時間を過ごされている。

また、代表及び職員の穏やかな関わりで家族の安心にも繋がっており、特に看取りの支援については、ホームを「我が家」とした在宅医との連携により、ある利用者の生前時のホームでの思い出の写真をアルバムにコメントを書き込み、初盆の際にお参りに持参される等、利用者を最期まで尊重した支援が行われた。今後の取り組みにも更に期待したい。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップ に向けて期待 したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は理念である“一人一人の尊厳を大切に”を掲げ、入居者の暮らしを支える為、毎日申し送りや月1回の職員会議時を活かし、日々の介護の実施に取り組んでいる。	職員は管理者の思いを受け止め理念をしっかりと意識している。職員のチームワークにて利用者のありのままを受け入れたケアに取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の会合に参加したり、年2回の地域との交流を行い地域の方々と顔なじみの関係を作っている。	老人会長及び民生委員の方々の協力により、地域への知名度も高まり相互に地域交流の構築に繋がっている。行事の折、地域の方も多く参加される。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や高校生の職場体験を受け入れ、介護の担い手となる人達の勉強の場として活用してもらっている。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での活動報告や抱えている問題等を定義し、意見を聞かせて頂き参考にさせてもらっている。行事等にも参加して頂いている。	会議は2ヶ月を目途に1回実施され、行事の報告、他事業所の虐待についての事例等情報交換の場として、双方向の話し合いで進行されている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会を通じ、施設の雰囲気を見てもらい、より深く相談しやすくなり、助言をしてもらおう事で質の向上に繋がっている。	会議に参加して頂くことで情報の交換や相談の機会がえられている。新事業においても協力関係がえられている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠等をする事なく、目配りの中で生活の支援をしている。又、代表者を含め職員と身体拘束はしないという方針の中でケアの提供を行っている。</p>	<p>利用者の安全確保を第一に見守り支援で関わられている。言葉の掛け方もとらえかたによるが、理念の尊厳にそって職員共有の支援に努められている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等に参加し、虐待は絶対に行ってはならないと日々管理者と職員とで話し、意見の統率を図っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成人後見人制度について研修は受けたが、現在該当する人はいない。必要となった時は活用できるように支援していきたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ時点で説明を行い、不安・疑問等を話し、初期段階で理解・納得してもらっている。契約書にも記載している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族の意見・要望が発生した場合、その都度管理者や職員で話し合い解決していくようにしている。家族の思い・利用者の思いを考えながら日々のケアを行っている。</p>	<p>家族との信頼関係が絶対的に大切である事を示され、家族会や行事において家族との協力関係を実践されている。ホームの菜園での野菜作りも家族の協力が得られている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議時、施設の状況等を説明し、理解を求めている。又、職員からも打開策の意見等を取り入れ反映させている。</p>	<p>育児中の職員の勤務時間への配慮や職員会議で食事つきの勉強会等実施されている。また、管理者と職員は意見や相談ができる関係が構築されている。</p>	

12	<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表は希望を取り入れ作成。リーダーを中心として行事の企画・立案等、各人の能力を引き出すようにしている。又、研修の参加や資格取得する目的を持たせ働く意欲を持たせている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会に参加してもらったり、資格取得の目的をもってもらったりとスキルアップできるように支援している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡協議会の研修に参加することで、他の施設の職員との交流を行ったり、訪問する機会を設け、お互いにスキルアップ出来るように取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者本人との面談の中で、何を求めどのように生活していきたいのかを聞いて、本人の不安の解消に繋げている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の家族との面談の中で、不安や困っている事を聞き、施設の方針を説明しながら家族の不安を取り除くよう努力している。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネ・本人・家族を交え話し合い、必要としている支援や家族の希望等を見極め支援している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>すべてを支援するのではなく、個々の能力に合わせ出来る事は協力してもらいお互い助け合いながら共生している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者一人一人の様子を写真撮影してホーム内に提示してり、機関紙で日ごろの様子を伝え、ホームビデオを作成したり、年1回家族会を開催したり意見や要望等を聞き出すようにしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人にとって大切な人は職員にとっても大切な人と捉え、訪問時は心地よく過ごしてもらっている。家族との見舞いなどにも連れて行っている。</p>	<p>利用者の要望に応じて遊技場への同行等生活暦を把握して、できる事・取り組みたい事への支援に努められている。家族の訪問や帰宅も支援されている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の見守り・食事介助等入居者自ら行っている。集団レクや又共同での作品作り等を通じ仲間意識を持ってもらうようにしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所した入居者の家族から頂き物をしたりと継続的に会っている。又、相談は常に受けるようにし支援できる事はしていこうと考えている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居前面談時利用者家族の意見を把握し、職員一丸となり希望を叶えるよう努力している。本人が希望・要望する事は取り入れるよう努力している。</p>	<p>職員は利用者ひとり一人のできることを言葉掛けを苦慮して、日々の生活への自信に繋がる様な支援に努められている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴を把握し、若い頃どんな仕事でどんな趣味があったかを知り、生活の中に役立てている。入居時なじみの家具を持ち込んでもらっている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々入居者の状態を観察し、それぞれの能力・希望を引き出しその人らしい一日を過ごしてもらっている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3か月に1回モニタリング（変化があるとその都度）をカンファレンス時に行う。又、利用者の家族の意見を把握し職員一丸となり希望に添えるように努めている。</p>	<p>職員は、常に利用者の細かな変化も見逃さない様に、メモも心掛けて介護計画の作成及び変更があれば随時に話し合いをもとに作成されている。</p>	
27	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々個別記録に記入し、細かい変化等は連絡ノートや申し送り時に職員に伝達・実施し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>結婚式や家族のお見舞いなど支援している。</p>		
29	<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>図書館で本を借り、入居者方に読んでもらったり、ビデオ上映して喜んでもらっている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時家族の希望を取り入れ、係りつけ医院を決めてもらい、安心した医療を受けてもらっている。</p>	<p>かかりつけ医及び歯科の往診が定期的の実施され、口腔ケアも徹底して支援されている。医療連携の信頼関係により、家族の安心にも繋がっている</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医の看護職と相談し、健康管理や医療の支援を受けている。又、同一事業所の看護職とも相談・協力を要請し支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際、管理者が家族と共に主治医を面談し、早期退院に向けて努力を行っている。入院時の不安を取り除く為、面会等を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期をどう迎えるかという事で協力医のDr・家族・管理者と話し合い、職員全員で方針を共有している。看取りの指針を作成し活用している。</p>	<p>看取りの経緯はあり、かかりつけ医の24時間対応の支援により、家族の意向を状況に応じて話し合い、職員共に理念に沿った思いで支援に努められている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応については、看護師の指導を得てマニュアルを作成し目を通すようにしている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回（1回は消防署立会）の訓練を行う。又、警備会社への通報装置などで災害対策を行っている。</p>	<p>夜間想定避難訓練の実施やスプリンクラーの設置に取り組み、万全に努められている。民生委員との情報の共有に努めて協力関係がえられている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い・言葉がけ等、常に注意を払っている。ドア・カーテンを利用し、プライバシーの保護を行っている。	理念にそった尊厳の意義を意識して、周囲の方への配慮も怠ることなく言葉掛けに配慮されている。職員のチームワークも良く、穏やかに声掛けをして関わられている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動の対し、本人に説明し、了解を求めるような支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペース・能力に合わせて支援を行っている。又、本人が希望するだろうとの発送の中で支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に美容師がいて入居者の希望に合うカットの支援を行っている。無料で提供している為金銭的な負担軽減に繋がっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の目標に合わせてメニューをボードに記入し、入居者の好みに合わせランチオンマットを選んでもらったり職員も共に食事をし、全員が食べ終わるのを待って片づけている。	菜園の野菜の収穫を楽しんだり、職員と共に下準備や台ふき・食器拭き等出来る事を協力的にされている。また、味付け彩りも良く和やかな雰囲気である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・おかゆ・刻み等その人に合わせた食事で提供し、水分補給の為夜間もペットボトルにお茶を入れるなどして対応している。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後歯磨きを行い、週1回入れ歯洗浄を行っている。歯磨きができない入居者については、介助にて支援している。又、トゥースエッティを使い口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>入居者の排泄パターンを把握し、自立での排泄が困難な方は時間誘導するなど支援している。排泄チェック表を作成し記録を取っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄状況を把握して、言葉かけやしぐさを見逃さず手引き誘導等、自立に努められている。夜間時はオムツ等の使用で安眠に配慮されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や繊維の多い食べ物の摂取を心がけ、毎日ラジオ体操や散歩を行っている。又、排泄チェック表により排便のチェックを行い腹部マッサージやDrと相談し薬の調節を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴回数は週3回で介助しながら一人一人の入浴を行い、必要に応じシャワー浴等支援も行っている。拒否がある入居者には時間をずらしたり次の日の入浴を行っている。</p>	<p>各ユニットは週3回の入浴支援で入浴拒否や汚染等の状況に応じて、毎日入浴が可能で身体の清潔保持に努められている。身だしなみも整えられている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼間の活動を多く取り入れ、夜間良眠に繋げている。睡眠パターンを記録で把握し、眠剤の服用をせずホットミルクや湯たんぽ等で支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服薬については全員処方箋をファイルし、職員がいつでも目を通せるようにしている。変更があった場合は申し送りや連絡ノートに記入し、状態の観察を行っている。</p>		

48	<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>掃除・調理・茶碗拭き・洗濯物干し・たたみ・園芸等自分の役割が生きがいに繋がるように支援している。又、個々の趣味も継続できるように支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族の入院お見舞いや旅行・墓参り等家族の協力の元行っている。</p>	<p>身体機能の低下に努めて散歩や外出の機会を設けられており、雲仙への日帰り旅とホテルでの昼食を毎年実施されている。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの入居者は自己管理していない。施設での立替で買い物に行き自らのお金を支払う事ができるように支援している。</p>	
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者が希望すれば子機を渡し、自室にて使用できるようにしている。</p>	
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールにはテレビ、ソファを置き入居者が集まりやすい雰囲気である。手作り暖簾をかけ台所はカウンターキッチンで常に入居者が目にはいるようになっている。清潔をモットーとしている。季節に合わせた雰囲気作りをしている。</p>	<p>手作りの日めくりカレンダーや手作り貼り絵が飾られ、室温、清掃等の衛生面も配慮されている。職員も一緒に昼食後、和やかに会話を楽しんでいる。</p>
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには食卓テーブル・ソファを設置し、入居者同士自由に過ごせるように配慮している。</p>	

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は入居者が入居前にしていた家具や生活用品等が持ち込まれ、その人らしい部屋作りになっている。	家族の訪問時、寛いだり、宿泊できる広さで馴染みの品の持込や職員手作りのプレゼントを飾り、清掃も行き届き、快適に過ごせる様に配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の安全管理の配慮し、居室入口や廊下等などに手すりを設置。床面はバリアフリーとなっている。手作りの表札や手作りのカレンダー・時計の位置にも配慮している。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)</p>		<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>		<p>1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)</p>		<p>1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>		<p>1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>		<p>1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は理念である“一人一人の尊厳を大切に”を掲げ、入居者の暮らしを支える為、毎日申し送りや月1回の職員会議時を活かし、日々の介護の実施に取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の会合に参加したり、年2回の地域との交流を行い地域の方々と顔なじみの関係を作っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や高校生の職場体験を受け入れ、介護の担い手となる人達の勉強の場として活用してもらっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での活動報告や抱えている問題等を定義し、意見を聞かせて頂き参考にさせてもらっている。行事等にも参加して頂いている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会を通じ、施設の雰囲気を見てもらい、より深く相談しやすくなり、助言をしてもらう事で質の向上に繋げている。		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠等を行うことなく、目配りの中で生活の支援をしている。又、代表者を含め職員と身体拘束はしないという方針の中でケアの提供を行っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等に参加し、虐待は絶対に行ってはならないと日々管理者と職員とで話し、意見の統率を図っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>成人後見人制度について研修は受けたが、現在該当する人はいない。必要となった時は活用できるように支援していきたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ時点で説明を行い、不安・疑問等を話し、初期段階で理解・納得してもらっている。契約書にも記載している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族の意見・要望が発生した場合、その都度管理者や職員で話し合い解決していくようにしている。家族の思い・利用者の思いを考えながら日々のケアを行っている。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議時、施設の状況等を説明し、理解を求めている。又、職員からも打開策の意見等を取り入れ反映させている。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表は希望を取り入れ作成。リーダーを中心として行事の企画・立案等、各人の能力を引き出すようにしている。又、研修の参加や資格取得する目的を持たせ働く意欲を持たせている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会に参加してもらったり、資格取得の目的をもってもらったりとスキルアップできるように支援している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡協議会の研修に参加することで、他の施設の職員との交流を行ったり、訪問する機会を設け、お互いにスキルアップ出来るように取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者本人との面談の中で、何を求めどのように生活していきたいのかを聞いて、本人の不安の解消に繋げている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の家族との面談の中で、不安や困っている事を聞き、施設の方針を説明しながら家族の不安を取り除くよう努力している。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネ・本人・家族を交え話し合い、必要としている支援や家族の希望等を見極め支援している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>すべてを支援するのではなく、個々の能力に合わせ出来る事は協力してもらいお互い助け合いながら共生している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者一人一人の様子を写真撮影してホーム内に提示してり、機関紙で日ごろの様子を伝え、ホームビデオを作成したり、年1回家族会を開催したり意見や要望等を聞き出すようにしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人にとって大切な人は職員のとっても大切な人と捉え、訪問時は心地よく過ごしてもらっている。家族との見舞いなどのにも連れて行っている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の見守り・食事介助等入居者自ら行っている。集団レクや又共同での作品作り等を通じ仲間意識を持ってもらうようにしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所した入居者の家族から頂き物をしたりと継続的に会っている。又、相談は常に受けるようにし支援できる事はしていこうと考えている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居前面談時利用者家族の意見を把握し、職員一丸となり希望を叶えるよう努力している。本人が希望・要望する事は取り入れるよう努力している。</p>		

24	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴を把握し、若い頃どんな仕事でどんな趣味があったかを知り、生活の中に役立てている。入居時なじみの家具を持ち込んでもらっている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々入居者の状態を観察し、それぞれの能力・希望を引き出しその人らしい一日を過ごしてもらっている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3か月に1回モニタリング（変化があるとその都度）をカンファレンス時に行う。又、利用者の家族の意見を把握し職員一丸となり希望に添えるように努めている。</p>		
27	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々個別記録に記入し、細かい変化等は連絡ノートや申し送り時に職員に伝達・実施し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>結婚式や家族のお見舞いなど支援している。</p>		

29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>図書館で本を借り、入居者方に読んでもらったり、ビデオ上映して喜んでもらっている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時家族の希望を取り入れ、係りつけ医院を決めてもらい、安心した医療を受けてもらっている。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医の看護職と相談し、健康管理や医療の支援を受けている。又、同一事業所の看護職とも相談・協力を要請し支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際、管理者が家族と共に主治医を面談し、早期退院に向けて努力を行っている。入院時の不安を取り除く為、面会等を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期をどう迎えるかという事で協力医のDr・家族・管理者と話し合い、職員全員で方針を共有している。看取りの指針を作成し活用している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応については、看護師の指導を得てマニュアルを作成し目を通すようにしている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回（1回は消防署立会）の訓練を行う。又、警備会社への通報装置などで災害対策を行っている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い・言葉がけ等、常に注意を払っている。ドア・カーテンを利用し、プライバシーの保護を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動の対し、本人に説明し、了解を求めるような支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペース・能力に合わせて支援を行っている。又、本人が希望するだろうとの発送の中で支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に美容師がいて入居者の希望に合うカットの支援を行っている。無料で提供している為金銭的な負担軽減に繋がっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の目標に合わせメニューをボードに記入し、入居者の好みに合わせランチョンマットを選んでもらったり職員も共に食事をし、全員が食べ終わるのを待って片づけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・おかゆ・刻み等その人に合わせた食事で提供し、水分補給の為夜間もペットボトルにお茶を入れるなどして対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、週1回入れ歯洗浄を行っている。歯磨きができない入居者については、介助にて支援している。又、トゥースエッティを使い口腔ケアを行っている。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>入居者の排泄パターンを把握し、自立での排泄が困難な方は時間誘導するなど支援している。排泄チェック表を作成し記録を取っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や繊維の多い食べ物の摂取を心がけ、毎日ラジオ体操や散歩を行っている。又、排泄チェック表により排便のチェックを行い腹部マッサージやDrと相談し薬の調節を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴回数は週3回で介助しながら一人一人の入浴を行い、必要に応じシャワー浴等支援も行っている。拒否がある入居者には時間をずらしたり次の日の入浴を行っている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼間の活動を多く取り入れ、夜間良眠に繋げている。睡眠パターンを記録で把握し、眠剤の服用をせずホットミルクや湯たんぽ等で支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服薬については全員処方箋をファイルし、職員がいつでも目を通せるようにしている。変更があった場合は申し送りや連絡ノートに記入し、状態の観察を行っている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>掃除・調理・茶碗拭き・洗濯物干し・たたみ・園芸等自分の役割が生きがいに繋がるように支援している。又、個々の趣味も継続できるように支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族の入院お見舞いや旅行・墓参り等家族の協力の元行っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの入居者は自己管理していない。施設での立替で買い物に行き自らのお金を支払う事ができるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者が希望すれば子機を渡し、自室にて使用できるようにしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールにはテレビ、ソファを置き入居者が集まりやすい雰囲気である。手作り暖簾をかけ台所はカウンターキッチンで常に入居者が目にはいるようになっている。清潔をモットーとしている。季節に合わせた雰囲気作りをしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには食卓テーブル・ソファを設置し、入居者同士自由に過ごせるように配慮している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は入居者が入居前にしていた家具や生活用品等が持ち込まれ、その人らしい部屋作りになっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の安全管理の配慮し、居室入口や廊下等などに手すりを設置。床面はバリアフリーとなっている。手作りの表札や手作りのカレンダー・時計の位置にも配慮している。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)			1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)			1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)			1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない